

## 博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 歌川 孝子  
学位 博士 (保健学)  
学位記番号 新大院博 (保) 第12号  
学位授与の日付 平成27年3月23日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
博士論文名 在日フィリピン人母の異文化における子育て支援に関する探索的研究

論文審査委員 主査 小林 恵子  
副査 中村 勝  
副査 宮坂 道夫

### 博士論文の要旨

#### 1. 研究の背景

フィリピン国籍の母 (以下、フィリピン人母とする。) は、2008年時点で日本人と結婚した外国人女性の中でも最多である。外国人母の子育ては、日本人母同様の子育ての課題に加えて、異文化適応も同時に求められることから危機的状況に陥りやすい。日本人と同じ母子保健サービスが保障されている一方で、異文化に配慮した支援には至っておらず、外国人母の子育て支援に関する先行研究も少ない。そのため、異文化での子育ての困難さや、母国の子育て文化に配慮した支援方法を見出すことが課題となっている。

#### 2. 研究目的

フィリピン人母の子育てにおける異文化適応過程、及びフィリピン人母に対する保健師の子育て支援過程を明らかにし、フィリピン人母への子育て支援に関する示唆を得る。

#### 3. 研究方法

方法はModified Grounded Theory Approach (M-GTA、以下M-GTAとする。) を用いた。

研究参加者は、A県内に居住し、日本人と結婚し在留資格を持つフィリピン人母14人、及びフィリピン人母に対する支援経験のあるA県内の市町保健師13人であった。

2009年1月～11月に半構成面接法によりデータを収集し、逐語録を作成した。

研究計画書は新潟大学大学院保健学研究科研究倫理審査委員会の承認を受けた (承認番号第59号)。

#### 4. 結果

逐語録を分析した結果、フィリピン人母の異文化適応過程では、概念26、サブカテゴリー8、カテゴリー4が抽出された。また、保健師の子育て支援過程では、概念24、サブカテゴリー7、カテゴリー3が抽出された。以下、カテゴリーを【 】で示す。

フィリピン人母の子育てにおける異文化適応過程は、【子育て文化のギャップに対する苦悩】を抱えた母が、子どもを心身ともに健康に育てるために【両文化による子育て方法の模索】を行い、その

結果【両文化統合による子育て方法の獲得】に至る過程であり、その一連の過程を支えていたのは【両文化によるサポート】であった。この過程において、【子育て文化のギャップに対する苦悩】の段階では、母の日本語使用が子どもに対する愛情表現や自文化伝承を妨げる原因となっていた。また、【両文化による子育て方法の模索】の段階では、子どもの成長や異文化適応が次の試行への動機付けとなっていた。

保健師による子育て支援過程は、【異文化支援に対する困惑】を抱え外国人支援の準備が整わないまま支援を求められる状況下で、【異文化適応を目指した子育て支援方法の模索】を個別性に合わせて行い、【両文化を尊重した支援方法の創造】に至る過程であった。【異文化適応を目指した子育て支援方法の模索】の段階においては、母がもつ異文化に配慮した支援がなされていたが、母の反応を確認することが難しく、支援に不全感を抱いていた。

## 5. 考察

フィリピン人母が直面する苦悩は、母国と日本の子育て文化の違いと孤独感に起因しており、自文化の伝承と同国人母によるピアサポートが不可欠である。子育てとは文化の伝承である。それは、母国の誇りや内面的規範の伝承でもあり、異文化において子育てをする中で重要な意味を持つ。夫による支援はもとより、子どもの異文化適応と自文化伝承が母自身の異文化適応を促進していた。黒木の異文化適応モデルと比較すると、フィリピン人母が文化的アイデンティティを獲得しながら異文化適応に至る過程が類似していた。

フィリピン人母の子育てを支援する保健師は、母の子育て方法と異文化に対する自らの拒否的な感情に困惑しており、支援結果にも不全感を感じていたが、それはフィリピン人の国民性や社会的価値観の相違など、異文化理解の機会の少なさによるものと推察される。母の自文化に配慮した支援の重要性は、両文化を尊重した支援方法の創造に至る段階で認識しているが、早期の支援段階において、母の自文化に配慮することにより、母の異文化適応を促進し、保健師の不全感も軽減するものと考えられる。

「文化ケア」理論によるサンライズ・モデルと比較すると、母の自文化に関する情報不足とフィリピンの保健医療制度や子育て文化に関する理解がその後の支援に影響していることが推察された。フィリピン人母の子育てにおける異文化適応に向けた支援について、「文化ケア」理論に基づく異文化適応に向けた支援の提供、子育てを支援する地域のサポート体制の整備の必要性が示唆された。

## 審査結果の要旨

下記の視点で審査を行った。

### 1. 保健学（看護）の視点・価値

研究課題は国際化が進む一方、異文化看護に関する研究の蓄積が少ない状況下において、在日フィリピン人母の子育てをとらえた異文化適応の過程とその子育て支援をする保健師の支援過程を記述した貴重な研究である。加速する国際社会に向けて、重要な視点に着目した研究であるといえる。

### 2. 構成と内容

文献検討において、保健医療の分野だけでなく、文化人類学、保健医療社会制度等、幅広い視点で文献を引用し、論述している点は評価できる。

研究方法はModified Grounded Theory Approach (M-GTA、以下M-GTAとする。)を用い、分析手順を明確に記載している。さらに、分析の質を確保するため、M-GTA研究会に参加し、報告・検討を行

っていると共に、研究方法を開発した研究者から直接指導を受けており、分析の質は信頼できる。研究対象者の地域的な偏り、数、インタビュー内容の質についての課題があることは否めないが、研究の限界に記載されている。また、倫理審査を受け、必要な倫理的配慮の手続きはされている。

結果の記述においては、データに忠実に記述されているとともに、数年にわたり、継続的にデータの分析を繰り返し検討し、概念を生成・洗練している点や、これまで明らかにされてこなかった「フィリピン人母の子育てにおける異文化適応過程」、及び「フィリピン人母の子育てに対する保健師の支援過程」を図で明確に示している点など、新たな知見を見出している。

考察では、結果から生成された概念について検討を加えるとともに、フィリピン人母の子育てにおける異文化適応過程においてはアトキンスらによる発達モデルを補足改変した黒木モデルと比較し、その特徴を記述し、さらに、保健師の支援過程については、Leiningerの「文化的ケア」理論に基づくサンライズ・モデルを用いて比較検討し、特徴と課題を記述している。さらに、これらの結果、考察をもとに、フィリピン人母の異文化における子育て支援への有用な示唆を示している。

### 3. 表現

研究背景に関する論述の順序性、用いる概念や考察の表現および記述内容において、わかりにくい表現や、説明が不足している点などについて指摘があった。

### 4. 発表と質疑応答

発表においては、スライドも見やすくポイントを押さえて作成されており、発表内容もわかりやすく、明確であった。質疑についても的確に回答できていた。

審査委員会では、在日フィリピン人母の子育てをとおした異文化適応の過程とその子育て支援をする保健師の支援過程について、realityをもって描かれており、今後、在日外国人母の増加が見込まれ、ニーズが高まるとされる外国人母の子育て支援において重要な示唆を与える研究であると評価した。

以上、論文審査委員3名の意見として、論文を学位規則第4条第1項により、博士（保健学）の学位論文として相応しい水準にあると認め、「合格」と判定した。